

「どう生きるか」から考えるACP

▶▶1

「人生の物語」について  
一緒に考えましょう

私たちの身近にある、かけがえないそれぞれの人生の物語や、終末などについて取り上げていくシリーズです。

地域のクリニック、また急性期医療から在宅療養、介護など、継続的に様々な人生を支援する私たちも含めて、具体的なテーマをもとに、地域の皆さんと大切な誰かとの物語を考えていきたいと思っています。

アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning: ACP) 『人生会議』の主旨は、「自分の死の問題から目をそらさないで、最期の迎え方について、家族や医療者と話し合いをして、それぞれの人が望む終末期医療を提供できるようにする」と思われるが、その普及はなかなか進んでいない。

「考えたくない」「だって、いつが最期なのかわからない」「気持ちが変わることだってある」という声も聞こえてくる。私もそうした意見に、「そっだよな」「無理はないよな」と思う。

私自身といえば、まず「92歳の母親の人生の最期をどう看取るか？」ばかりを日々考えていた。しかしだ。主介護者で、母の最期の看取りを託されている私が、ある日、手術をした方が良くということになった。石が原因の疝痛発作なので、簡単な手術で取り除くだけ

だが、全身麻酔だし、もしも私になにかあれば、「最後まで猫と家で暮らしたい」という母の思いを叶えてやれなくなる。もう一人、娘(妹)がいるが、介護者になれる家庭環境にはない。

夫。私に任せておいて、心配ないよ」と言ってきた。ある年のお正月には、「胃ろう(胃に穴をあけて栄養を入れる)や人工呼吸器はつけないで」という母の考えを妹と二人で聞いている。しかし、それからだいぶ時間も経っている。

現在、母は要介護5。食事や排泄にも介助が必要で、認知症もあり、自分の気持ちをなかなか言葉にできなくなつた。普段、おかげを食べているけれど、「深瀬鮎の穴子寿司」なら食べられるし、お茶の

「看取りは、自宅とか、とろみのつけ具合や」がん袋のくるみ餅」が好物だとかは、日頃、一緒に介護をしてもらっているヘルパーさんやボランティアさんと私以外は知らない。

「看取りは、自宅とか、とろみのつけ具合や」がん袋のくるみ餅」が好物だとかは、日頃、一緒に介護をしてもらっているヘルパーさんやボランティアさんと私以外は知らない。



近藤克則先生は、『高齢者の終末期ケア』(中央法規：2010年4月15日発行)の中で「大切なのは、どこで看取るか、ではなくって、いかに看取るか、であるという。

一緒に ACP Thinking Time!

あなたは「人生最後の晩餐」の食事に、なにを食べたいですか

スタッフA

亡き母が握ったおにぎり

スタッフW

いちぢく握り寿司

スタッフK

とろろそば

もし思い浮かんだら、それをご家族や周りの人にも伝え、一緒に話してみませんか?



当院スタッフのペットとの経験をベースに、絵本とテキストを作成。「『どう生きるか、の延長線上にある人生の最期について』を考える入口として、広めていく予定です



「てんぶらー声を聞かせて」絵本より

4つのステートメント(案)

ジェンダー平等—2  
人権が大切にされる  
社会へ変化させよう

世界の流れは理性を取り戻しつつある

持続可能な開発目標(国連開発計画)

市民が政府を動かしていく時代!



国連では、2030年までのグローバルな課題の解決として、17の持続可能な開発目標を立て、その中の一つに「ジェンダー平等の実現」を位置づけました。ジェンダー平等な社会を目指すことは、人権を守る立場の組織である同仁会としても重要な課題です。

現場では女性職員がたくさん活躍していますが、日本の社会における女性の扱い調査では、「仕事と家庭生活のバランスが、キャリアの障壁になっている」との意見が多くあります。「家庭内のサポートが足りない」と回答した女性は44%で、「家庭内のサポート不足」が役職者構成比に影響を及ぼしていることも考えられます。

- 4つのステートメント(案)
\* 同仁会はジェンダー平等の社会を推進します
\* (仮称)性の多様性を認め合える組織へ
\* 互いを尊重しあい、ハラスメントが発生しない職場づくりをめざそう
\* 平和、地球環境、人権を守る運動を現場・地域から広めよう

ジェンダー平等を目指すには、一定の比率で男女数を割り当てる「クォーター」で、家庭内のサポート不足が役職者構成比に影響を及ぼしていることも考えられます。ジェンダー平等を目指すには、一定の比率で男女数を割り当てる「クォーター」で、家庭内のサポート不足が役職者構成比に影響を及ぼしていることも考えられます。

同仁会 副理事長 今村千加子